

Forest通信 令和元年 9

No.367

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山の生きものたち

カワセミ (カワセミ科)

「溪流の宝石」とも呼ばれるカワセミ。青緑色の羽で、背中青色が輝いて美しい。この色は、羽毛の微細な凹凸により光が屈折、反射し、緑や水色にも見える。また、胸のオレンジが鮮やかで、長い嘴と丸っぽい身体も可愛らしい。

水辺の留鳥で、河川や湖沼、公園の池などで見られ、高尾付近にも棲む。餌は、魚や水生昆虫、エビなど水中の動物。採食するときは、水辺の枝や岩から、ときには空中でホバリングしてから、水中に嘴から飛び込んで餌を捕らえる。鳴き声は、チーやチッチー。この声で見つかることもある。この鳥は魚が多い川などの水辺に棲む。川で魚が多いのは、森から流れる水がたくさんの生き物を育てているからだ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.47 クスノキ (クスノキ科)

関東地方以西の暖地に自生する常緑高木。古い時代に大陸から渡来したとも言われています。高さ15~35mになる。「となりのトトロ」が住んでいる木としても有名です。

名前の由来は、全体に特異な芳香を持つことから、「臭し(くすし)木」や「薬の木」などが語源といわれ、薬効ある木という意味合いで使われたようです。

葉にはダニ室があり、クスにとって無害なフシダニが生息し、捕食性のダニの餌なり常に捕食性のダニの密度が維持され、有害なダニの増殖を押さえています。

材木としては、辺材と心材の境界は明瞭で、木肌は緻密で、耐湿・耐久性に優れ、加工は容易。乾燥時には狂いが出やすい。耐朽性が高ので、内装材、社寺建築、家具、楽器、彫刻に用いられ、木魚は最上とされています。虫害や腐敗に強いいため、古くから船材や水車料として重

宝されていました。

クスから取れる樟脳は、セルロイド、カンフル注射など薬の材料として利用されましたが、プラスチックの普及により、その役割を終えました。(皿)



クスノキの板



クスノキの葉



樹皮



脈腋のダニ室

親子森林探検とクラフトづくり

8月4日（日）に「親子森林探検とクラフトづくり」を開催しました。今回のイベントは山の日制定記念のイベントとして毎年工夫を凝らして実施しています。当日は6～7月の梅雨寒とは打って変わり酷暑の中でのイベントとなりました。

午前は、森林探検と題して散策ポイントごとにアトラクション的な要素を盛り込んでいます。最初のポイントでは職員手作りの竹製の本格的な水鉄砲を使っての的当て競争です。はじめに子どもたちだけで開始しましたが、途中から保護者の方が参加されるとたちまち白熱した展開に！意外と大人にも大好評でした。宝探しでは午後からのクラフトづくりで使う木の実を探しました。カラフルに色づけされた木の実や枝はリースのデコレーションになります。丸太切りと薪割り、竹炭の詰め放題では汗びっしょりで頑張りました。最後は草笛教室と10円玉磨きです。最初はぎこちなかった草笛も少しずつ音が出るようになってきました。そしてカントウミヤマカタバミの葉っぱで10円玉を磨くとびかびかの新品になり、みんなびっくりした様子でした。

午後からは、木の実を使ったクラフトづくり。子どもたちは木の実の配置などを自分で考え、グルーガンで木の実を板に貼り付け、名前を書いて完成させました。その間、保護者の方には別席でマツボックリを使ったリースを作っていました。

炎天下の中でしたが、職員の手作り感満載のイベントで皆さんには十分に楽しんで頂けた様子でした。（磯）



丸太切りや薪割りに挑戦



見つかるかな？宝探し



こどもたちのクラフトづくり



バランスよく木の実を配置



森林探検のはじまり！



白熱した水鉄砲での的当て



保護者の方々はリースづくり

「山の日」 制定記念イベント開催

「山の日」制定記念イベントを開催しました。

林野庁では「山や森林・山村に親しむ～感じよう、山の恵み、森の恵み～」をテーマに「山の日」の制定を記念して全国の森林管理局・署等及び団体で各種イベントを開催しています。今年で4回目を迎え、当センターでは、高尾山エリアにおいて一般の方々や公募された方々と各種イベントを実施しました。(田)

まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦 (8月11日開催)

今年は「まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦」を森林インストラクター東京会と協定イベントとして、高尾の自然を親しみながらボランティアで登山道のゴミを拾うecoハイキングを実施しました。

参加者総勢86名が4班に分かれ、登山道4コース(①琵琶滝コース(6号路)、②稲荷山コース、③いろはの森コース、④日影沢コース)から一斉にスタートし、山頂には予定どおり全員無事に到着し、昼食後に全員で記念写真を撮影しました。山の日に生まれた女の子(9歳)も参加してくれました。

関東森林管理局からは、東京事務所と当センターの職員7名が参加し、山の日PR用の「半被」を羽織り、「のぼり旗」を持って「山の日」のPRをしました。

高尾山は「ゴミの持ち帰り運動」が浸透しているものの、燃えるゴミ45ℓ1袋・20ℓ1袋、ペットボトル20ℓ2袋、瓶・缶がそれぞれ20ℓ1袋となり、ごみが無くなることはありません。4つのコースとも一人の脱落者、けが人もなく当センター前の広場に予定どおり全員が到着し、閉会式を行いました。



高尾山GREEN CLEAN作戦 参加者

期間限定・クラフト体験！ (8月5日～11日開催)

「山の日週間限定！スペシャル・クラフト」を開催しました。期間限定で小学生以下の児童を対象として夏休みの宿題に最適な「木のみほん」など日替わりでクラフト作品を作りました。家族連れで満員御礼の大好評でした。

魚取りと植物・生き物観察教室Ⅰ・Ⅱ (8月10日、11日開催)

日影沢キャンプ場と周辺の小川や森林において、NPO法人「森とでんえん倶楽部」と連携して、「夏休み高尾山自然体験教室」を実施しました。8月10日は54名、11日は57名が参加し、お父さんお母さん、家族の皆さんと一緒に高尾山の素晴らしい環境の中で、生物観察、魚取り、川遊び、草笛、スイカ割り、クラフトで作ったカブトムシ・クワガタの相撲大会など盛りだくさんのイベントを体験し学習しました。

山の日記念 TAKAO599祭 山の学校 (8月11日～13日開催)

「高尾山で まなぶ あそぶ つくる」をテーマに高尾599ミュージアム主催により、トークショー、ネイチャーレッスン、音楽LIVE、ヨガミニレッスン等を日替わりで出演者・内容を変えて行われました。

体験楽習フェア八王子2019in高尾山 (8月24日、25日開催)

八王子観光コンベンション協会が主催する「体験楽習フェア八王子2019in高尾山」が高尾599ミュージアムを主会場に屋内・屋外で体験できる染め物、手織り、箸置きづくり、甲冑装着、レンガのアーチ橋づくり、スカットボール体験などのイベントがあり、同じ敷地内にある当センターも「山の日週間限定！スペシャル・クラフト」を2日間追加で実施しました。



クラフト体験作品「木のみほん」

職場体験 江東区立 深川第八中学校

8月29日（木）に、江東区の深川第八中学校2年生3名が職場体験に訪れました。

当日は、前日まで続いた涼しさから一変、真夏日となり厳しい残暑の中での体験となりましたが、初めて経験する間伐作業や森林観察の体験に汗びっしょりになりながら取り組んでくれました。

午前中に実施した間伐作業は、思った以上に大変だったようですが、1本の木を自分の手で倒し、枝を落とし、玉切って運び出しまで行ったことに大変満足した様子でした。

午後は、あまりの暑さのため予定していた作業を取り止め、森林教室で実施する森林観察を体験してもらいました。生徒たちは、初めて見る木や草花に興味を持ち、葉を触ったり、匂いをかいだり、味わったりしながら繰り返し繰り返し声に出し名前を覚えようとする姿に小学生とは違う一面を見た気がしました。

体験終了後に体験で感じたことを書いてもらった感想文には、仕事の大変さ、普段何気なく使っている紙や、建物に使われる柱や板などは大変な苦勞があって作られていることを木1本切り倒し運び出したことで痛感したこと、自然の中にいるだけで気持ちが落ち着き自然の大切さを感じたことなどが書かれており、特に、当センターが行っている森林や林業、自然の大切さを伝えることは自然を守るために大切だと感じたとの感想には、指導した側としても大変うれしく、短時間での職場体験であっても体験してもらおうことがいかに重要かを感じた1日となりました。（谷）



みんなで受け口位置の確認



間伐材の運び出し



間伐終了 おつかれさま



編集後記

普段気にしていない小さな花や実も、ルーペ等で観察すれば違う姿が見えてきます。



コアカソの雌花



ミズヒキの鉤状花柱

Forest通信 NO.367

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>